

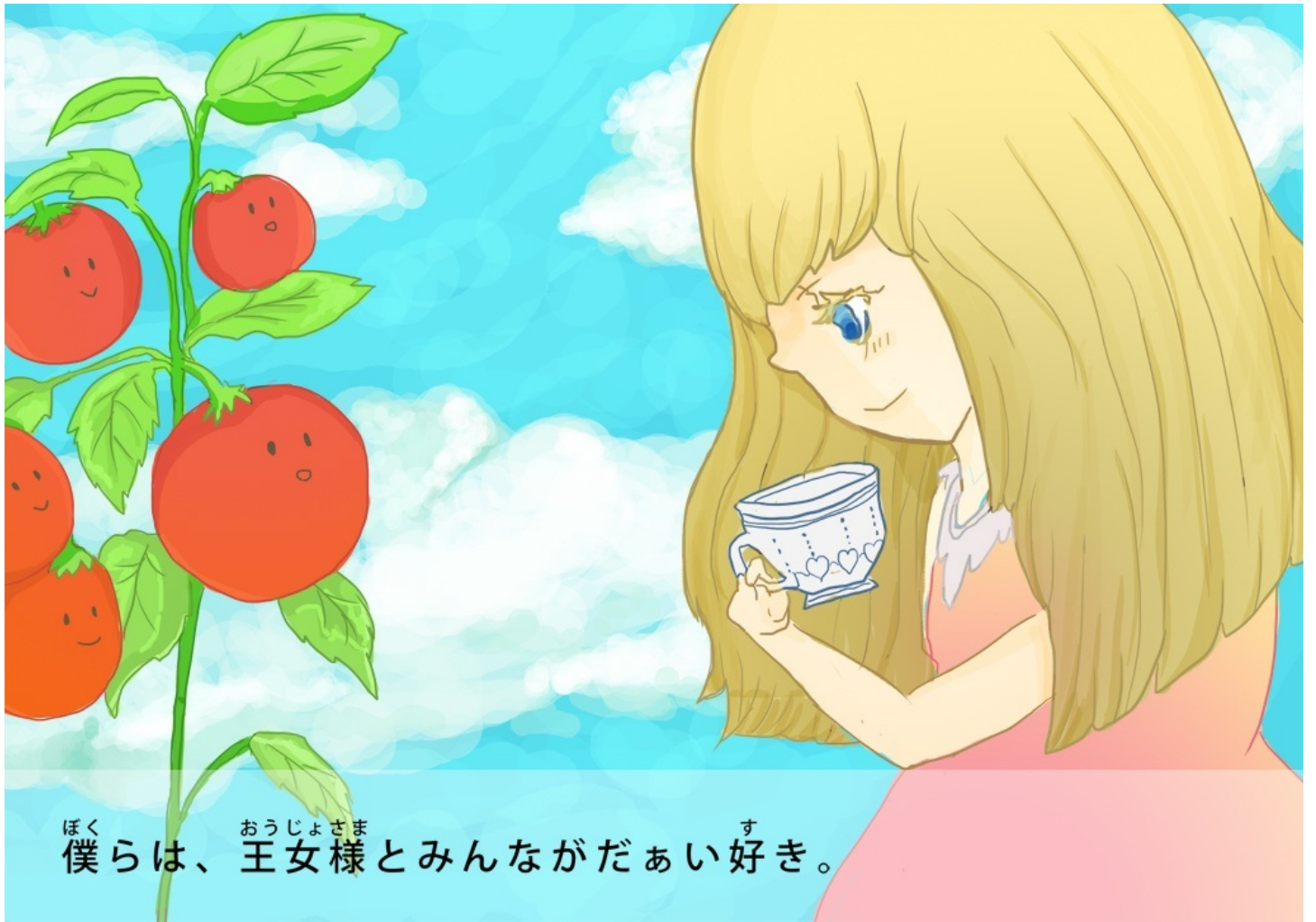


僕らが過した
秘密の庭

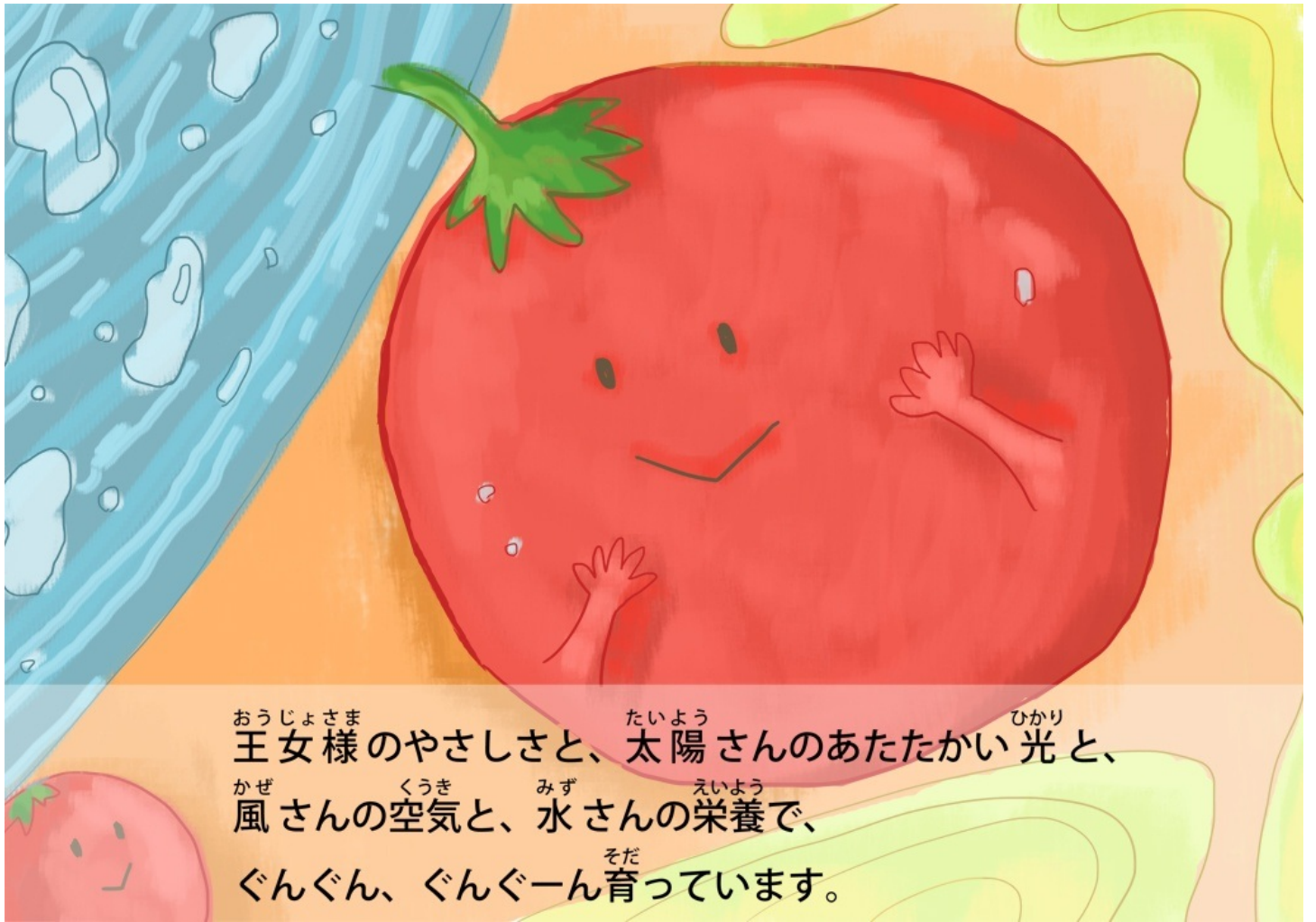
～トマト～



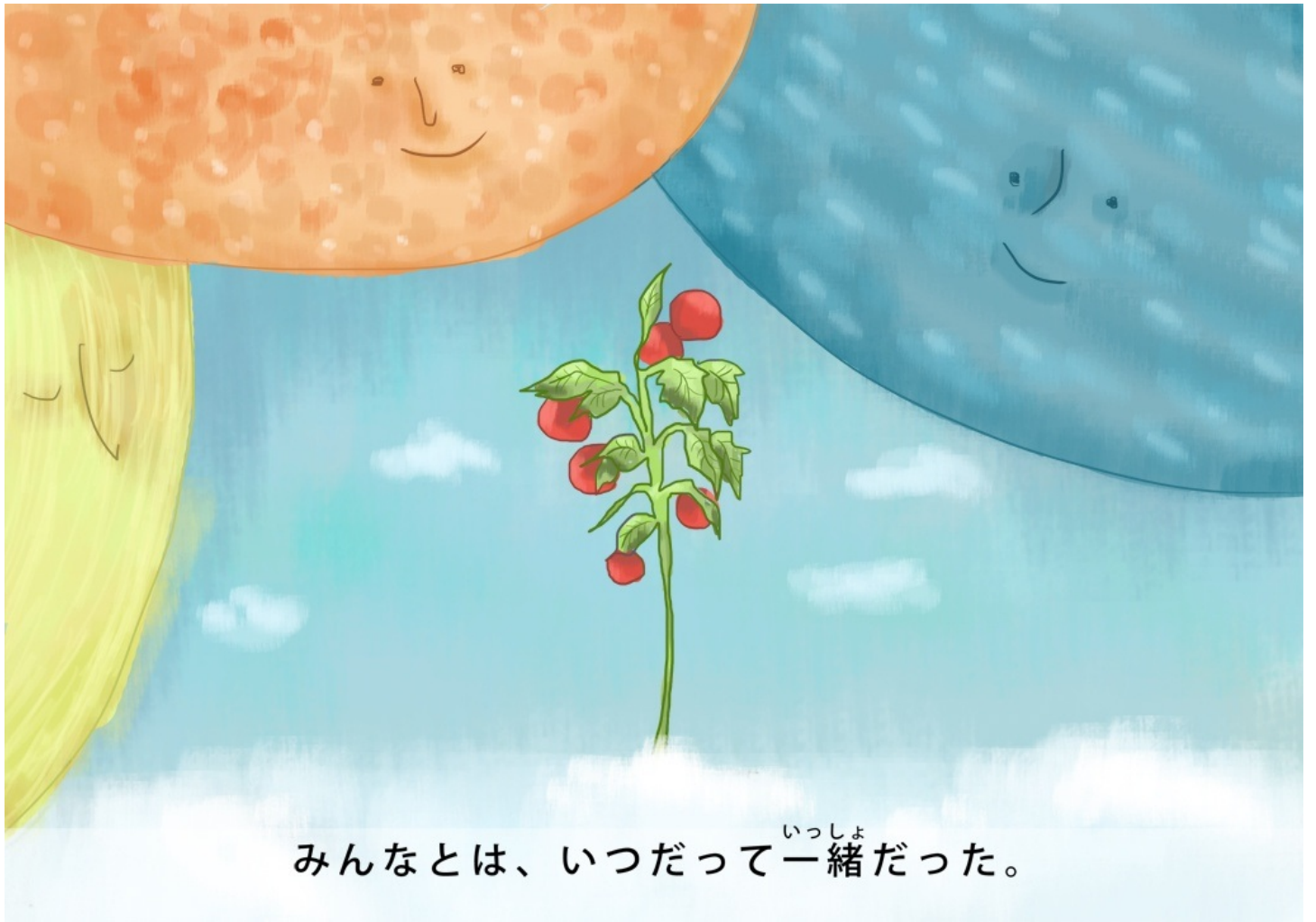
むかしむかし、^{にんげん}人間の^{おうじよさま}王女様が、^{たいよう}太陽さんと^{かぜ}風さんと
^{みず}水さんと、おしゃべりしていた^{ころ}頃のお^{はなし}話で・・・
^{ぼく}僕は、^{おうじよさま}王女様がもつ^{ひみつ}秘密のお^{にわ}庭のトマトでした。



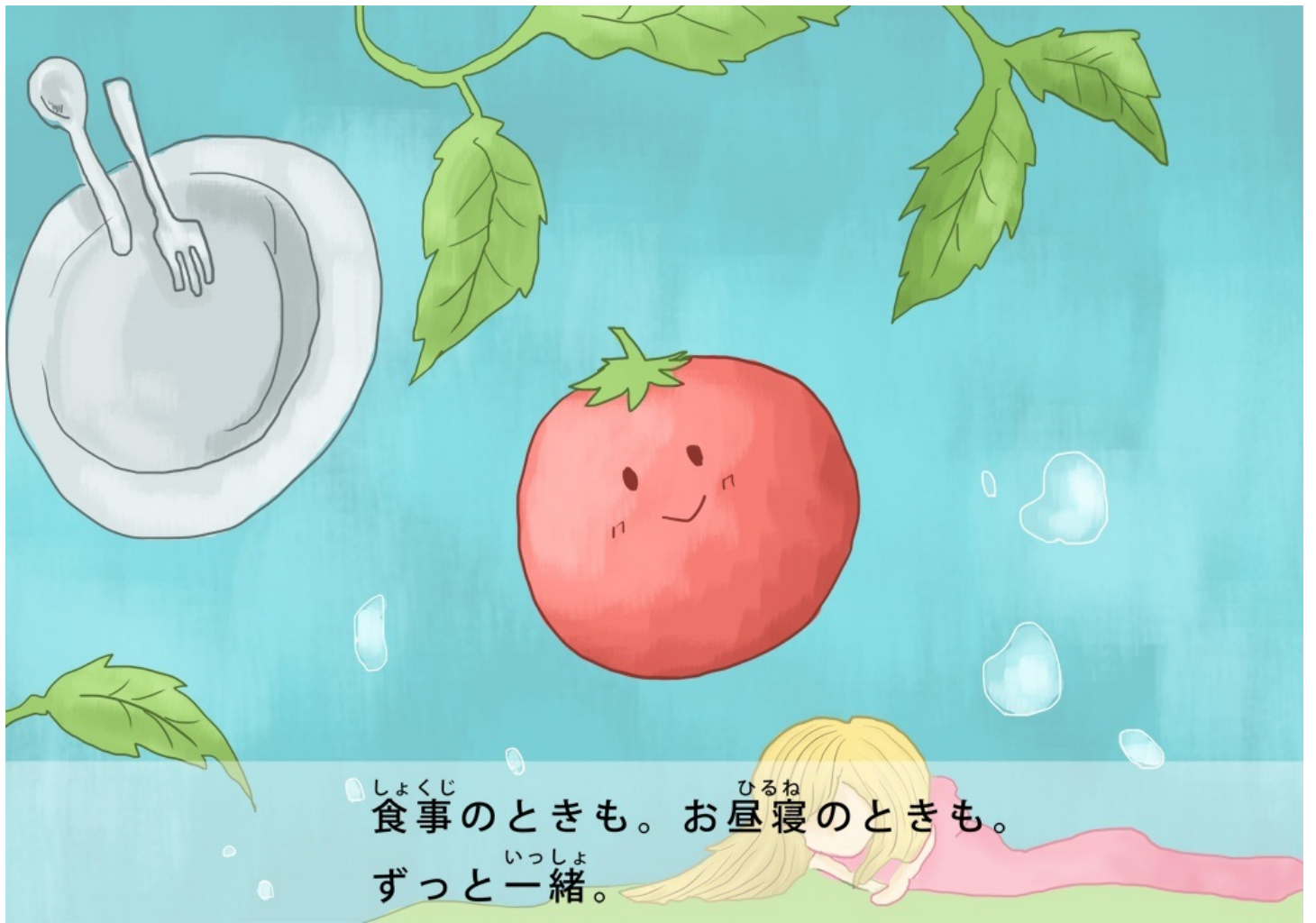
ほく おうじょさま す
僕らは、王女様とみんながだあい好き。



おうじよさま
王女様のやさしさと、
たいよう
太陽さんのあたたかい
ひかり
光と、
かぜ
風さんのくうき
空気と、
みず
水さんのえいよう
栄養で、
ぐんぐん、ぐんぐーん
そだ
育っています。



みんなとは、いつだって^{いっしょ}一緒だった。



しょくじ
食事のときも。おひるね
のときも。
ずっといっしょ
一緒。



おうじょさま ^{ほく} 僕たちに ^{すてき} 素敵な ^{うた} 歌を ^き 聞かせてくれる。
みんなうっとり。僕らもうっとり。



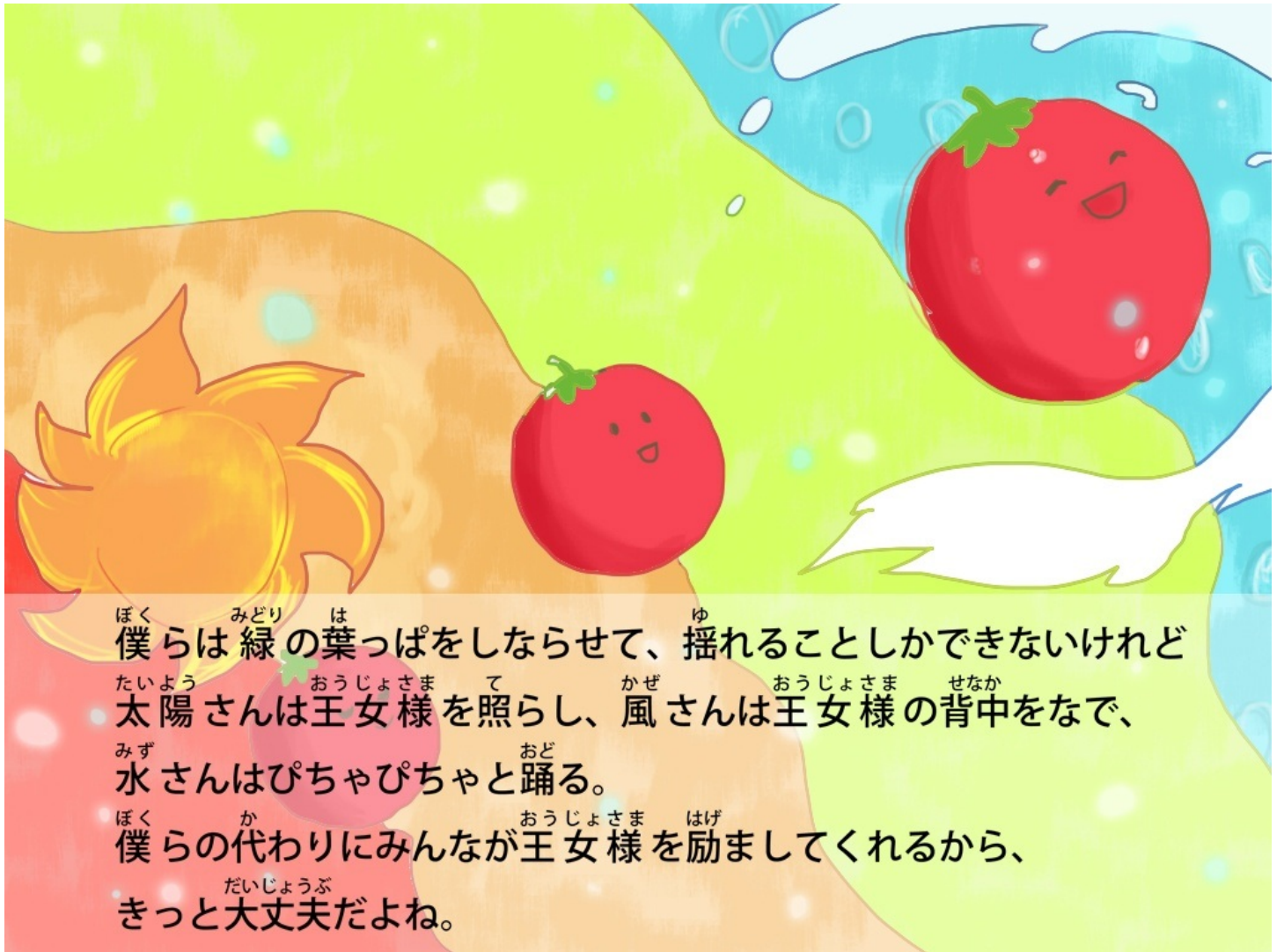
あるとき僕らのひとりが落下して、うっかりケガをしちゃったら
王女様は僕らのために涙を流してくれました。



やさ おうじよさま
とっても優しい王女様。

だいじょうぶ
大丈夫だよ！

かな かお な
そんなに悲しそうな顔で泣かないで。



ぼく みどり は ゆ
僕らは緑の葉っぱをしならせて、揺れることしかできないけれど
たいよう おうじよさま て かぜ おうじよさま せなか
太陽さんは王女様を照らし、風さんは王女様の背中をなで、
みず おど
水さんはぴちゃぴちゃと踊る。
ぼく か おうじよさま はげ
僕らの代わりにみんなが王女様を励ましてくれるから、
だいじょうぶ
きっと大丈夫だよ。



^{おうじょさま} ^{ぼく} ^{みまも} ^{おお} ^{わら}
いつも王女様は僕らを見守って、「大きくなあれ」って笑うんだ。
^{いま} ^{おお}
今にとっても大きくなるからね。
^{おお}
ぐんぐん、ぐんぐーんと大きくなるからね。



それから何か月かの時が過ぎて、なん げつ とき す僕らは王女様ほく おうじよさまのいうとおり
おお大きなまあるいトマトになりました。
ほく りっぱ すがた み おうじよさま僕らの立派な姿を見て、王女様はにっこり。
ま よろこ おうじよさまくるくる舞って喜んでくれました。ありがとう王女様。



となり くに おうじさま あらわ
そんなあるとき 隣の国の王子様が現れて、
おうじよさま
王女様にプロポーズ。



おうじさま くちびる おうじよさま くちびる ふ
王子様の唇がそっと王女様の唇に触れました。

ほお あか おうじよさま
ぽっと頬が赤くなった王女様。

ぼく ぜんしん とたん
僕らもドキドキ、全身が途端にまっかっか。



幸せおうじよさまそうな王女様、明日あしたはさっそくけっこんしき結婚式なんだってね。

だけど僕ぼくらはちょっとだけさび寂しいきぶん気分。

やっぱりね、好きす・・・なんだよ。



たいよう かぜ みず おうじよさま にわ おうじよさま すかた
太陽さんと風さんと水さんが住む王女様のお庭に、王女様の姿はない。

だってこれはむかしむかしのお話だからね。

いま ぼく
今でも僕らのほっぺはまっかっか。

うた じょうず すてき おうじよさま
歌が上手でやさしい素敵な王女様。

いま にわ たいす
今はこのお庭にいないけど、ずっとずっと大好きだよ。

僕らが過ごした秘密の庭～トマト～

<http://p.booklog.jp/book/77711>

『僕らが過ごした秘密の庭～プリンセス～』もヨロシク♪

<http://p.booklog.jp/book/77710>

著者 : itazo

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/shokurepe/profile>

ホームページ

食楽レシピ : <http://www.shokurepe.com/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77711>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77711>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ